

令和6年11月12日(火) 16:00～  
於 会議室、応接室

各部会 16:00～16:30

○しっかり学び ゆっくり探る部会【会議室】

1. 「総合的な探究の時間」授業の概要説明

個人ではなくグループでの探究活動をしている。協働的に1つの研究をしていく。中間発表をいれることで短期目標ができ、緊張感も保てる。グループ相互に意見交換もできている。

・ChatGPTを使っていることについて説明

どういう問いを立てたらよいかのアドバイスをもらい、型を作ってもらい、という使い方をしている。行き詰まったときのアドバイスなどをもらっている。新たな取り組みであり、生徒にも驚きがある。研究したかったことの答えが全部返ってきてしまうこともあるので自分たちはどうしたらよいか今後の課題だ。高校生レベルではどうにもならないものの中にはある。

Q 3月に行われる成果発表会の時間や形式などはどうなっているのか。

A 1班12分程度で行う。ホールの画面を使ってプレゼンし、全体に質問を投げかける。発表するのは7グループほど。

Q 前期課程からのつながりはどうなっているのか。

A 5年次で完結できるようにした。

2. 教科横断型授業について

各教科から出たものをまとめた表を昨年から活用している。これを用いて各教科でコラボする等は学校全体としてはまだなかなか取り組めていないが、個人でやっているケースは見受けられる。物理の波と数学のサインコサイン、地震の話で比例反比例等、理科で扱っていることを数学でも関連づけている。理科と数学は親和性が高いので職員室でも話題になる。もっと活用していきたい。地理での学習が文化祭の発表になる等、教科と行事の関連もある。

委員より

- ・本気で教科横断を考えていくなれば、学校行事や他教科との関わりを探さなければならない。この表だけでは足りているとは言えず、関係づけられることを探さなければならない。中学校では教科横断はかなり盛んにおこなわれている。
- ・形だけやるのであれば、生徒にも教員にも負担になる。形だけ整えても意味がない。
- ・教科横断型の授業だけでなく、どのような授業をしているか、何を教えているのかを教科ごとに記録して残しておくべきだ。教員間で教える内容にバラつきがあってはいけない。公立学校は教員の異動があるので、教務がまとめて保存しておくのが良い。
- ・授業をマニュアル化し、教員で共有すると良い。

## ○じっくり育て部会【応接室】

### 1. かながわサポートドックについて

昨年度より始まった。結果は昨年度とあまり変わっていない。2割ぐらいの生徒(150~200人ぐらい)に要支援との結果が出た。強制ではないが、質問の内容によりスクールカウンセラーとの面談を勧めている(プッシュ型面談)。週4回のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの予約は殆ど埋まっている状態だ。誰がプッシュ型面談に該当するのか把握しきれていない点もある。生徒は面談についてハードルが高く感じているようだ。プッシュ型面談につなげるために、担任にだけ頼るのではなく、面談につながりやすい声掛けや具体的な手立てを考えたい。

Q 支援も必要だが配慮も必要だ。また、配慮でとどめてもいい生徒もいるのではないか。プッシュ型面談について、大枠から外れるのを好まない生徒が多いのではないか。医者に行くのと同じぐらいの気軽さで行けるとよい。薬は処方されなくても聞いてもらうだけで治る場合もある。また、スクールカウンセラーへの相談者の数が増えることを悲観しなくてもよいのではないか。面談へつなげることについて、あまりシステム化しなくてもよいのではないか。

A 他校ではかなりプッシュ型面談につなげている。プッシュ型面談につながらなければサポートドックをやる意義がないと考えている。特定の生徒の様子を共通して気に掛ける機会となるようにしたい。

Q 「かまってほしい」という意識から書く生徒もいるかもしれない。

A 自分のことではなく友人についてのことであったが、20人の生徒がいじめの項目にチェックを入れていた。

Q 上に兄や姉がいると、「何でもないよ。」と言ってくれることもある。本来、違いはあって当然なのだが、中学生・高校生という集団にはめられてしまい自分のアイデンティティをうまく作れない生徒もいる。

Q 子どもは、「誰にも言えない」場合辛いのではないか。「フリータイムで話しませんか?」というものがあるとよいのではないか。

A 昼休みは、予約なしで相談室を訪れることができるフリータイムとして既に設定しているが、認知されていない。友達同士・複数で訪ねてもよいということを周知する。

### 2. 制服検討に係る進捗状況、平塚中等教育学校との交流について

2年前から検討を始めた。夏の冷感素材、透けない素材を導入した。平塚中等との交流を通して、平塚中等は体操着で授業を受けてもよい、スマートフォンは後期生でも使用不可という違いがあることがわかった。

Q 私立の学校では、襟に校章が印字されていることが多い。

A 校章の位置については、特に意見はなかった。

Q 平塚中等との交流を深めるなら、管理職同士で進める必要がある。以前は年に2、3回は行っていた。

Q P T Aでは年に2回交流している。平塚中等の方が大らかな雰囲気を感じる。P T Aも生徒会と交流したいと考えている。

A 平塚中等は、P T Aと年に2、3回交流していると聞いた。生徒会とP T Aが交流し活動がより活発になる方法を模索していきたい。

## 1. 委員の紹介

### 2. 学校長挨拶

蒼碧祭文化部門での生徒達の活動が素晴らしかった。10月は2、3、5年生の宿泊行事が続いた。2、3、5年は振返りを大切にしてほしい。2年生は農業職業体験についてのポスターセッションを全班が行った。この後は芸術祭展示部門・合唱部門が続く。芸術祭での生徒の活躍を楽しみにしている。

### 3. 令和6年度学校評価中間報告について

#### ・研究開発Gより、資料6について

横浜桐蔭学園の手法を受けながら、目指す生徒像を意識し、各教科でそれぞれどのような授業を行うか考える。

#### ・副校長より、資料7について

高い英語運用力の育成を目指し、英語の各資格・検定試験の受検を推奨している。英検保有率についてはマチコミでも配信し、受検を推奨している。6年時の準1級保有率は、16%と上昇している。

#### ・生徒会Gより、資料3について

制服検討委員会を昨年度より立ち上げた。完全なリニューアルは行わないが、保護者、生徒へのアンケートを行いながらアイテム別の困りごとを確認し、検討した。一期、二期、三期と分けてアイテム別に絞っていく。現在第二期まで進んでいる。第三期のアイテムについてはこれから検討する。

資料4について、生徒会選挙の際に平塚中等との交流を公約に掲げた生徒がおり、その後の活動の結果文化祭にお邪魔することができた。コロナウィルスの流行の際はオンラインで交流した。

#### ・生徒支援Gより

サポートドックは昨年度から始まった。いじめの有無を調査することもできる。サポートドックへの回答より、100名を超える生徒について支援が必要と出た。支援が必要な生徒には声掛けし、スクールカウンセラーとのプッシュ型面談を勧めたが、プッシュ型面談にはなかなか繋がらなかった。スクールカウンセラーに相談に行くことはハードルが高いと感じているようだ。しかし、教員一人ひとりが生徒に気をとめるきっかけになっている。昼休みは、予約なしで相談室を訪れることができることを周知する。また、友達同士・複数で訪ねてもよいということも周知する。

#### ・教務Gより、資料2について

教科横断一覧表について、教員が指導しやすく使えるように工夫したい。6年生の新カリは5月に完成した。

・総務Gより、資料8について

10月に行われた防災訓練は、雨天のため起震車体験等はできなかったが、避難時における職員や生徒の動きを確認することができた。

・企画Gより、学校案内について

最後のページに、小学生向けに在校生アンケートを掲載した。今後も小学生にわかりやすいように伝えていきたい。

・学校管理・学校運営について（資料10）

勤務時間管理システムを用い、時間外勤務について管理している。4～9月は80時間を超える時間外勤務を行った職員がいたが、7月からは0人となっている。昨年度に比べると時間外は減っている。県の状況も参考にすると、未だ多くの職員が時間外勤務を行っているため、勤務時間外はできるだけ早く退勤することを奨励する。

<協議・質疑応答>

Q 制服検討について、LGBTQを意識しているが、中等ではどうなっているのか？

A 詰め襟、ブレザーのどれを着てもいいと数年前に校則が変わった。女子の丸襟がスラックスとの組合せは合わない。夏用ドライシャツも導入した。ボタンダウンの採用は見送りになりそうだ。

Q 英語の資格検定について、6年時の準1級保有率16%は素晴らしい。保護者宛のお知らせのことは聞いたが、英語の授業自体では何か取り組んでいるのか？

A 毎年GTECという英語専門の模擬試験を受けるため、生徒は英語を学習する習慣が身に付いている。

Q 学校案内パンフレットの最後のページに前期生の習い事についてのアンケートがあるが、塾に行っている生徒はいるのか？

A 正式に調査したわけではないが、塾に通っているのは3分の1ぐらいではないかと感じる。

Q 評価の観点をわかる形にしてほしい。また、達成できて喜べるような評価、達成できそうな目標を設定するべきではないか。公立学校のため、毎年教員が入れ替わる。教科横断的な学習に向けた一覧表については、新しく着任した教員も使えるものにしてほしい。校務支援システムに置いておくのもよい。

A 転勤してきた教員もわかるように工夫する。

<ご意見>

・上級生になっても行事に打ち込めるのがいい。中等での6年が人生の礎となるような、学校生活を作ってほしい。

・あと2ヶ月で息子が受験。コロナ禍で部活動の試合が開催されなかったりした。受験がない分、部活に打ち込めるかと思ったが、十分できなかった。6年間あっという間に過ぎてしまうので後悔しないようにしてほしい。自分にいつも正直に生きてほしい。受験なのでこれからは健康に気をつけたい。最後に笑えるようにしたい。

・ Chat GPT についての研修は、校長の研修でも多い。1年前はどうやって使わせないか、だったが、今はどうやって使わせていくか、に変わった。同時に、しっかり学ぶ、ゆっくりに探るもやっていかなければいけない。時間外在校時間については、私学の場合は労働基準監督署の管轄のため、校長の管理ではないという違いはある。

・ 6年生の最後の1年間を問題演習に使えるのが良い。その一方で、支援が必要な生徒もいる。そちらのサポートも必要だ。

・ 先生方には、健康に留意してほしい。

・ 今日の議論をきっかけに、年度末に向けて尽力してほしい。

<連絡>

・ 第3回学校運営協議会

令和7年3月13日(木) 卒業式後 14:00～